

落ち込む話——1

「1」と書いた理由は、いずれそのうち、第2弾、第3弾があるだろうから。最近落ち込んだ話。「完璧だ。もはや変換間違いやミスプリもない。」と思って提出したホームページのこの欄。……実際には、幾度も読み返しているのに、ミスだらけ。「」や（ ）の間違い、日本語として体をなしていなかったり……ちょっと落ち込んでいます。……まさかこの文章にはないやろな！

次はズボンを穿き替えるとき、3回に1回くらい、チャックを上げ忘れる。そのまま歩いて小用に行くと、アレッ、いつ開けたかな？ ホンマ、しょっちゅうです。電車に乗って腰掛ける。向かいのオネエチャンが妙な笑い方でこちらを見ている。こちらとしては、「アッ、変なオネエチャンや。目え合わさんとこ……」電車を降りてから、ああ、（古い表現だが）社会の窓が開いていたのか。

以前にも書いたが、若い頃にはあとで顔から火がでるほど赤面したものだが、最近は、全く恥ずかしいと思わない。

くすりを処方しようとする。すると、くすりの名前が一瞬でてこない。よく使う薬ならそんなことはないのだが、あまり使わないくすりのときによくある。

もう時効だろうか。1年くらい前のこと。犬の散歩に公園に行く。子供用の遊具に雲梯というのがある。犬の方、つまり下を向いてかなりのスピードでゴンと髪の毛の生え際に何か当たったらしい。ちょっと出血したが、何よりも「痛い！」。ウー痛い！……しかし、絶対しゃがみこまんとこ、と決意したが、すぐに諦めてしゃがみこんで、……犬は当然ながら知らぬ顔をしている。みるみるうちにタンコブができて、しゃがみこみながらタンコブをさすって、……いなかっぺ大将の風大左エ門なら、時計の振り子のような涙を流しながら、ドボジデ……と言うところである。ワタシの場合は違った。涙の代わりに「よだれ」がでて……いやホンマ。

健康診断にきたやさしい女性が、笑いながら「先生、頭どうしたん？」いやちょっとな。……そんなもん、説明できるかあ！